

一〇二五年一月一五日

雨戸開け遺影の母に小春の陽  
寒蘭のこの香写真に映らずや  
城堀に映りし空も小春かな  
芝庭に小紋模様や散銀杏

あひる  
うつぎ

千鶴子

一〇二五年一月一四日  
奈落なる瀬も染むほどに紅葉燃ゆ  
列柱の大杉参道天高し

山椒山椒

文化の日百均で買ふ化粧水  
寒蘭の開花を知らす香りかな  
木々渡る小鳥の影や奥の院  
池望む腰掛石や石蕗日和

よし女  
うつぎ  
なつき  
康子

一〇二五年一月一三日

枯木立透かして見ゆる畝傍山  
家苞に銀杏拾ふ吟行子  
食卓に母の遺影と冬薔薇  
警備員動かぬ肩に色葉散る  
宮島の子鹿跳ねたる潮だまり

明日香  
あひる  
せいじ  
あひる  
あひる

一〇二五年一月一二日

墓石に鏡映りす空小春  
本殿へ磴は胸突き紅葉寺  
襞深きよりたち昇る山の霧

あひる  
あひる  
あひる

一〇二五年一月一一日

大空へ路線図描く大桔木  
毛玉ごと母の形見のカーディガン

明日香  
あひる  
やよい

千鶴子

水陽炎をどる回廊宮小春  
賜猛る弾薬庫への煉瓦道

康子  
あひる  
なつき

千鶴子

二の丸の橋起点とし菊花展  
出棺の讃美歌とどけ小春空  
新藁をしどねに子牛産まれけり  
観音の裾の日だまりしじみ蝶

康子  
千鶴子  
千鶴子  
澄子

毎日旬会みのる選・一〇二五年一月一七日